

スペイン語スペイン文学科 3年 ^{ほしの ゆづき} 星野 悠月 さん

——今回応募しようと思ったきっかけについて教えてください。

私はチャレンジ支援奨学金を活用して、小笠原諸島にある小笠原海洋センターを訪問し、ウミガメの調査保全・環境教育などの活動全般を支えるボランティアとして、1か月間にわたり活動しました。応募のきっかけは、ウミガメの保全活動に参加することで、生物の多様性及び地球の環境問題に向き合い、自然を守りながら、人間や生物が暮らしやすい環境を作っていくために、自分ができることを深く考えたいと思ったからです。

私は子供の頃からアウトドアが好きで、ガールスカウトによる植樹や野外活動も積極的に行っていました。こうした経験から、環境と調和した持続可能な社会づくりを自分のライフワークにしたいと考えるようになりました。そして今回の活動は、環境リーダーとしての資質を身につけるための実践的な学びの場になると考え、応募しました。

——現地での具体的な活動について教えてください。

約1か月間、小笠原海洋センター職員の指導で、ウミガメの飼育と産卵・ふ化率の調査、卵の保護活動などを行いました。

ウミガメの飼育については、毎日、水槽掃除や餌やりを行いました。産卵・ふ化率調査では、産卵巣を掘り起こして、卵が産み落とされてからの日数をカウントしたり、ふ化した後の殻を数え、どのくらいの割合でふ化できたのかなどを調べたりしました。ま



ふ化したカメがふ化場から逃げないようにネット掛けを行う星野さん

た、ふ化した稚ガメが海よりも街の明かりに誘引され、街へ歩いていってしまうことを防ぐため、海洋センターのふ化場に作った産卵層に、街に近い海岸で産卵された卵を埋める保護活動も行いました。ウミガメは1回で100個程度の卵を産むので、それらを全て手作業で埋めるのは大変な作業でした。

——活動による学びや気づきについて教えてください。

小学生の頃から環境問題に興味を持っていましたが、今回初めて実践による学びを得ることができました。このボランティアに参加したことにより、環境問題やウミガメについて詳しく知ることができただけでなく、環境問題に対する意識もさらに向上したと思います。

また、このボランティアでは、私たちの身近な問題である、マイクロプラスチックについても理解を深めることができました。プラスチックの問題は深刻ではありますが、私たち1人ひとりが意識して変えていけば、必ず解決できる問題だと私は思います。

——発展協力会へのメッセージをお願いします。

今回の活動は、私にとって、とても誇れるような経験となりました。この先の将来も、私たち人間や海洋生物、そして地球にとって良い暮らしができるよう、この経験を忘れずにいたいと思います。チャレンジ支援奨学金により、とても貴重な体験をさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。



無事に大人になれますようにと願いながら稚ガメを放流しました